

テーマ趣意文

※「テーマ趣意文記入例」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。

部門番号一覧は、ホームページ上の[部門番号一覧](#)からご確認ください。

専修 大学 中野英夫 ゼミ 中野英夫 A パート

29

部門番号

部門名

その他

テーマ 所得格差について

サブテーマ 所得格差対策としての所得税改革

趣意文

厚生労働省の調査によると、日本の所得格差の指標となるジニ係数は2002年は0.4983であったものの2014年には0.5704と0.0721も増加しており、日本の所得格差は増加している。資本主義社会の元ではある程度の格差の出現は自然なことであるが、所得格差は貧困層に分類される低所得者が貧困層から抜け出せなくなるという問題も含んでいる。所得格差が生まれる要因と社会に及ぼす問題にふれながら、所得格差対策として所得税改革を論じていきたい。

テーマ趣意文

※「テーマ趣意文記入例」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。

部門番号一覧は、ホームページ上の[部門番号一覧](#)からご確認ください。

中央 大学 芳賀 ゼミ A パート

29

部門番号

部門名

その他

テーマ 貧困問題

サブテーマ 子どもの貧困、支援活動

趣意文

日本の貧困、特に子どもの貧困について、その特徴や対策について議論したいと考えている。現代社会には、多くの解決困難な問題があるがその中の1つに『貧困』が存在する。その中でも、近年注目されているのが『子どもの貧困』である。

この課題の対策として、様々な支援がある中で、私たちは『子ども食堂』に目を向けた。それを中心とした子どもの貧困に対する支援や政策を調査していく。

具体的には、このような様々な対策は本当に貧困の子ども達の救いとなっているのか、そもそも今後も続けることが可能なのか、そのような点について調べていく予定である。

テーマ趣意文

※「テーマ趣意文記入例」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。

部門番号一覧は、ホームページ上の[部門番号一覧](#)からご確認ください。

中央 大学 佐藤拓也 ゼミ

パート

29

部門番号

部門名

その他

テーマ 地域経済学

サブテーマ 過疎地域を活性化させるための政策

趣意文

現在、日本では、各地域の高齢化、それに伴う人口減少が問題となっています。人口減少が進むにつれて地域社会の活力が低下し、いわゆる過疎地域が増加しています。私たちはその問題について、地域経済を活性化することで解決に導こうと考えています。

地域社会の経済を活性化させるために、まず大切なことは地域社会が自立するということです。そのためにはお金が必要となります。しかしそのお金を地域の外に漏らしては意味がなく、どのように地域内に循環するのか、が重要な課題となります。私たちは地域内に循環するためには、どのようなお金の使い方をすればよいのか。そもそも最初の資金をどう集めればよいのか。そして地域活性化するための具体的な政策はどのようなものにすれば良いか、例えば地域のブランド化や交通手段の発達などを考えていくことで具体的な政策を作り上げていきたいと思えます。このようにある地域を活性化させようとしたとき、まずその地域の分析が重要となります。生産、分配、投資。地域収支面での分析が特に地域を知るうえで大切になると考えます。

私たちは地域経済学についての学びを深め、その知識を実際の地域にあてはめて考え、具体的な政策を考えること課題としています。

テーマ趣意文

※「テーマ趣意文記入例」に目を通していただいた上で記入をお願いいたします。
部門番号一覧は、ホームページ上の[部門番号一覧](#)からご確認ください。

日本大学

加藤恭子ゼミ

加藤ゼミ 14 期 パート

29

部門番号

部門名 その他

テーマ 集団的浅慮から見る人々の行動

サブテーマ 災害時におけるグループダイナミクス

趣意文

私たちが住む日本では、地震・水害や火山等の自然災害が毎年発生している。

記憶に新しい災害と言えば 2011 年 3 月に発生したマグニチュード 9.0 の東日本大震災だろう。それによって引き起こされた大津波により東北地方は沿岸部を中心に甚大な被害を受けた。

宮城県石巻市の大川小学校は東日本大震災当時、在籍していた全校生徒 108 人のうち 74 人が大津波により亡くなった。その背景には想定外の大津波が来ることへの予測不足だけでなく、災害時の心理的判断を大きく左右する『集団的浅慮』が関係していると考察できる。

集団的浅慮は災害時のみならず、様々な集団行動の場面において発生する。組織ぐるみの隠蔽やハラスメント、会議等の集団の意思決定、学校におけるいじめなども集団的浅慮の一つだ。負の側面が多く目立つ一方で、周囲の状況を正の方向へ方向づけることも可能とされている。

私達はグループダイナミクスを正の方向へ方向づけ、災害時における集団の行動をより良いものにしていくことは出来ないのか、考察していく。